

感謝祈願詞

出口王仁三郎

靈界物語 第60卷第16章「祈言」より

感謝

至大地球の主宰に在坐て。『一靈四魂、八力、三元、世、出、燃、地成、弥、凝、足、諸、血、夜出の大元靈、天之御中主大神、靈系祖神高皇產靈大神。体系祖神皇產靈大神の大稜威を以て、無限絶対無始無終に天地万有を創造賜ひ。神人をしてかかる至真至美至善之神國に安住せ玉はむがために、太陽太陽大地を造り、各自々々至粹至醇之魂力体を賦与玉ひ。また八百万天使を生成給ひて万物を愛護給ふ、その廣大無辺大恩恵を尊み敬ひ恐み恐みも白す。

掛巻も畏き『大地上の国を知召します、言靈の天照國は。千代万代に動く事無く變る事無く。修理固成給ひし、皇大神の敷坐す島の八十島は。天の壁立極み國の退立限り。青雲の棚引極み、白雲の墮居向伏限り、伊照透らす大稜威は、日の大御守と嬉しみ尊み。常夜照る天伝ふ月夜見神の神光は、夜の守と青人草を恵み撫で愛しみ賜ひ。殊更に敵の御魂天勝國勝國之大祖國常立尊は、天地初発之時より独神成坐而隱身賜ひ。玉留魂の靈徳を以て、海月如す漂へる國土を修理固成て、大地球の水陸を分割ち賜ひ。豊雲野尊は足魂の靈徳を以て植物を生じ、葦芽彦遲尊は生魂の靈徳を以て動物を愛育て。大戸地、大戸辺、宇比地根、須比地根、生杓、角杓、面足、惶根の全力を以て。万有一切に賦与へ、天地の万靈をして、惟神の大道によらしめ賜ひ。神伊邪那岐尊、神伊邪那美尊は。天津神の神勅を畏み、天の瓊矛を採持ち。豊葦原の千五百秋の水火國を。浦安國と、何怜に完全具足に修理固成し賜ひて。遠近の國の悉々、國魂の神を生み、産土の神を任せ賜ひて。青人草を親しく守り賜ふ。その大御恵を仰ぎ敬ひ喜び奉らくと白す。

現身の世の習慣として。『枉津神の曲事に相交こり、日に夜に罪惡汚濁に沈みて。現界の制律に罪せられ。幽界にては神の政庁の御神制の随々、根の國底の國に墮行むとする蒼生の靈魂を隣み賜ひて。伊都の靈、美都の靈の大神は。綾に尊き豊葦原の瑞穂の國の真秀良場豊並る、青垣山籠れる下津岩根の高天原に、現世幽界の統治神として現れ給ひ。教親の命の手により口によりて、惟神の大本を講き明し。天の下四方の國を平けく安けく、豊けく治め給はむとして。日毎夜毎に漏る事無く遺る事無く。最懇切に百姓万民を教へ諭し賜ふ。神直日、大直日の深き広き限り無き大御恵を。嬉しみ忝なみ、恐み恐みも稱辭竟へ奉らくと白す。

祈願

天地初発之時より。『隱身賜ひし国の太祖 大国常立大神の御前に白さく。天の下
四方の国に生出し青人草等の身魂に。天津神より授け給へる直靈魂をして。益々
光華明彩至善至直伊都能売魂と成さしめ賜へ。邂逅に過ちて枉津神のために汚
し破らるる事なく。四魂五情の全き活動に由て、大御神の天業を仕へ奉るべく。
忍耐勉強もつて尊き品位を保ち、玉の緒の生命長く。家門高く富榮えて、甘し天地
の花と成り光と成り。大神の神子たる身の本能を發き揚しめ賜へ。仰ぎ願はくは大
御神の大御心に叶ひ奉りて、身にも心にも罪惡汚穢過失在らしめず。天授之至靈を
守らせ給へ、凡百の事業をなすにも。大御神の恩頼を幸へ給ひて、善事正行には荒
魂の勇みを振起し、倍々向進發展完成の域に立到らしめ給へ。朝な夕な神祇を敬
ひ。誠の道に違ふ事無く、天地の御魂たる義理責任を全うし。普く世の人と親しみ
交り、人欲のために争ふ事を恥らひ。和魂の親みに由て人々を惡まず、改言改過
ののしることなく、善言美詞の神嘉言を以て、神人を和め。天地に代るの勲功を堅磐
に常磐に建て。幸魂の愛深く。天地の間に生とし生ける万物を損ひ破る事無く。
生成化育の大道を畏み、奇魂の智に由て。異端邪説の真理に狂へる事を覺悟べく。
直日の御靈に由て正邪理非直曲を省み。以て真誠の信仰を励み、言靈の助によりて
大神の御心を直覺り。鎮魂帰神の神術に由て村肝の心を練り鍛へしめ賜ひて。身に
触る八十の汚穢も心に思ふ千々の迷も。祓ひに祓ひ、退ひに退ひ、須弥山の神山の
静けきが如く。五十鈴川の流の清きが如く。動く事無く變る事無く。息長く偉大く
在らしめ賜ひ。世の長人、世の遠人と健全しく。親子夫婦同胞朋友和睦びつつ。天
の下公共のため、美はしき人の鏡として。太じき功績を顕はし、天地の神子と生れ
出たるその本分を尽さしめ賜へ。総の感謝と祈願は千座の置戸を負て、玉垣の内津
御国の秀津間の国の海中の杳嶋神嶋の無人島に神退ひに退はれ。天津罪、国津罪、
許々多久の罪科を祓ひ給ひし、現世幽界の守神なる、国の御太祖国常立大神、豊
雲野大神。亦た伊都の御魂美都の御魂の御名に幸へ給ひて聞食し、相宇豆那比給ひ。
夜の守日の守に守幸へ給へと。鹿兒自物膝折伏せ宇自物頸根突抜て。恐み恐みも祈
願奉らくと白す。